

合理的配慮の提供事例報告書【中学校】

事例の概要

知的障害特別支援学級在籍の生徒に対する、整理整頓、話す力・体力向上の支援について

- | | | |
|------------|------------|------------------------|
| 1 対象生徒の障害種 | 知的障害 | |
| 2 障害の程度 | 非該当(知的障害) | ※学校教育法施行令22条の3に該当か非該当か |
| 3 在籍状況 | 中学校・特別支援学級 | |
| 4 学年 | 中1 | |

5 対象生徒の実態

基本的習慣は身についてきているが、整理整頓は苦手である。
 気持ちを伝えたり、話したりすることが苦手である。
 読みはできるが、書き取りが苦手。四則計算は理解している。
 制作活動は時間がかかるため、十分な時間が必要である。
 記憶することが苦手で時間が経つと、学習したことをほとんど忘れてしまう。
 肥満傾向で内股のため、階段の昇降に時間がかかる。疲れやすい。

6 対象生徒についての合意形成に至るまでの経緯

(1 誰からの申し出か 2 申し出の内容 3 連携、調整した関係機関 4 合意形成に至った結論)

特別支援学級担任と保護者の面談において、学校での様子、家庭での様子、医療機関の様子について連絡を取り合っている。
 校内就学指導委員会等で、生徒への配慮事項(個別の教育支援計画や指導計画の内容)について職員間の共通理解を図っている。

7 基礎的環境整備の視点と概要

基礎③ 個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成等による指導

A市では、各学校の特別支援学級在籍の児童・生徒について、個別の教育支援計画と指導計画を作成している。作成にあたっては、交流学級担任や教科担任と情報を交換しながら作成している。

8 合理的配慮の観点と概要

合理①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮

準備や片付けができるように、持ち物を置く場所に仕切りをつけたり、目印をつけたりして、所定の場所に置くことができるようにしている。

交流学級で聞いた連絡を伝える練習に取り組んだり、連絡帳に短文の日記を書くことでコミュニケーション力の向上をはかっている。

教室移動に配慮し、早めに行動できるように促している。

カレンダーに作品提出日を記入し、それまでの計画を書き入れて、毎日チェックしていくことで提出日を守れるようにしている。

合理①-2-3 心理面・健康面の配慮

運動後の体調について配慮する。また、体調を意識する声かけを行う。

学級農園の世話など、体調に配慮しつつ、体を積極的に動かす機会を設ける。

9 成果と課題

漢字の読み書きや長文の音読に取り組めるようになっている。

実習が短時間で出来るように継続した支援が必要である。